

## 参考資料（漢字評価集の試行結果について）

### 1. 一字一音での暗記（表1参照）

漢字の読みかえを答える問題では正答率が低くなりました。これは、訓読み中心の学習をしているため、音読みの定着が遅くなったと考えられます。

前後の文から、適切な漢字を類推できるように、問題を文章で出題しました。しかし、実際には文章を読むことなく、問題の箇所のみを見て答えた児童生徒が多かったと考えられます。

学習した形と異なる出題では、正答率が低くなりました。これは、語彙活用（動詞）が未定着のため、学習した活用の送りがな以外は解答が困難であることが考えられます。

連濁、特殊拍、特殊読みの難しさがあり、口頭では問題なく聞こえるものでも、実際に表記することが難しいため、解答率・正答率が低くなったと考えられます。

字形が似ている漢字は、それぞれの漢字の定着が悪いため、正答率が低くなったと考えられます。

考察	出題	正答	解答例
	水えい	<u>す</u> いえい	<u>み</u> ずえい
	火じ	<u>か</u> じ	<u>ひ</u> じ
	大すき	<u>だ</u> いすき	<u>お</u> おすき
	音がく	<u>おん</u> がく	<u>おと</u> がく
	数える	<u>か</u> ぞえる	<u>か</u> ずえる <u>お</u> しえる
	しんで	<u>死</u> んで	解答なし
	終業式	<u>しゅ</u> うぎょうしき	<u>しゅ</u> ぎょうしき
	五日	<u>いつ</u> か	<u>ご</u> にち・ <u>ご</u> ひ
	あおぞら	<u>青</u> 空	<u>青</u> のみの回答
	さら	<u>皿</u>	<u>血</u>
	体いく	<u>た</u> いいく	<u>や</u> すみいく

（表1）

### 2. 漢字の種類・定着（覚え易さ）

正答率の高さが(1)生活漢字（映画・弁当・国際 など）、(2)学習漢字（こん虫・計算 など）、(3)特殊漢字（五日・二十日 など）の順番であったため、漢字の定着もおおかたその順番の通りであると考えられます。また、1・2年生の漢字の定着度（正答率）が高いことから、早期に学習したことは長期間反復練習が可能であり、定着度も高いということも考えられます。

### 3. 漢字力の定義

漢字力を「文字（字形を覚える）」、「語彙（意味がわかる）」、「読み書き（読んで書くことができる）」の3つとすると、この漢字テストの形式で問題はないと思われます。しかし、日本語指導が始まって間もない児童生徒については、純粋に漢字力を測るのではなく、知っている語彙の中での漢字力を測ることになったことが考えられます。

### 4. 漢字テストの経験不足

漢字テストを受けた経験が少ないため「テスト慣れ」していない児童生徒が多くいました。これは、テストを実施する前に、テストへの取り組み方（解答をどこに書くか・一人で考える など）を指導する必要があると考えられます。